

野山の花

— 身近な山野草の食効・薬効 —

城西大学薬学部 白瀧 義明 (SHIRATAKI Yoshiaki)

コブシ *Magnolia kobus* D.C. (*M. praecocissima* Koidz.) (モクレン科 Magnoliaceae)

3月、ようやく春めいてきた山里を歩くと、山の中腹や民家の庭などで真っ白な花を枝いっぱいにつけた木を見かけます。これがコブシです。本植物は北海道から九州にかけての日本、朝鮮半島南部の山地に自生し、庭などにも植えられる落葉高木で、高さは7~8mになります。幹は直立し表面は灰色、よく分枝し、小枝は折ると芳香があります。葉は互生、有柄で広倒卵形、先端は突形、基部は広くさび形をしていて全縁です。若葉には毛があり、毛はやがて脱落し、托葉は膜質で早く落ちます。3~4月ごろ、葉に先立って花をつけ、つぼみは毛皮質の包葉で2~3重に包まれた倒こん棒形をし、がく片は3個で外面に軟毛を密生します。花弁は6枚、白色でへら形、基部は少し赤みを帯び、花の径は約10cm位です。コブシの名前の由来は花後にできる果実の表面が盛り上がり、握り拳こぶしのようにぼこぼことした形をしていて、人の拳こぶしのように見えるところからついたとされています。また、コブシには枝を一周する托葉痕があります。托葉痕はハチマキともいわれ、モクレン科に共通する特徴でもあります。



写真1 コブシ (蕾)



写真2 コブシ (花)

開花直前のつぼみをシンイ (辛夷, *Magnoliae Flos*) とよび、漢方で鎮静、鎮痛を目標に鼻炎、蓄膿症、頭痛、頭重感などに用い、漢方では葛根湯加川芎辛夷かつこんとうかせんきゅうしんい、辛夷清肺湯などに配剤されます。成分は精油成分として limonene (リモネン), citral (シトラール), α -pinene (α -ピネン), methyleugenol (メチルオイゲノール) 等のモノテルペンやアルカロイドの coclaurine (コクラウリン), リグナン化合物の fargesin (ファルゲシン), magnolin (マグノリン) 等が含まれています。日本薬局



写真3 シデコブシ (花)



写真4 コブシ (果実)



写真5 コブシ (赤い種子が見える果実)

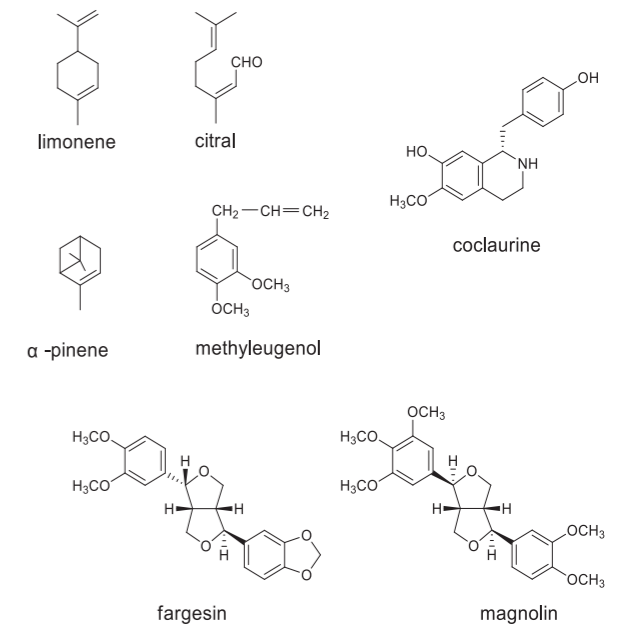


図1 成分の構造式

方でコブシと同じく、シンイの基原植物とされるタムシバ *M. salicifolia* Maxim. は葉が細長く、コブシには花期に花の下に小さな葉がありますが、タムシバにはこの葉がありません。また、タムシバは citral を多く含有し、芳香が強いのが特徴です。中国産の辛夷は別種でハクモクレン (白木蓮) *M. denudata* Desrousseau, ボウシュンカ (望春花) *M. biondii* Pampanini, マグノリア スプレングリ *M. sprengeri* Pampanini とされています。シデコブシ *M. stellata* (Siebold & Zucc.) Maxim. (*M. tomentosa* Thunb.) は日本固有種であり、愛知県、岐阜県、三重県の一部に分布し、庭などに栽植されているものの自生個体群は準絶滅危惧種に指定されています。